

## 第26回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ②

### 「出会いの尊さ」



鰐渕 裕太

海城高等学校 2年

こんにちは。チーム2の鰐渕裕太といいます。ここでは、このキャンプの感想やその後を、今から振り返ってみて書いていこうと思います。駄文ですが最後まで読んでいただけると嬉しいです。

私たちが韓国に渡航した期間というのは、ご承知の通り日韓関係が過去最悪と殊更に強調されていた時期であり、テレビや新聞などのマスコミでは連日不安を煽るような報道がなされていました。また、数々の日韓交流行事が中止になる中、私も韓国に渡航するまで、少し不安に思っていました。ですが、私は日頃から、国は国、人は人という思考をするように心がけてはいましたので、韓国人だからと言ってそれは全く関係ないと考えていました。この考えは後で正しいことがわかるのですが、この話はあとで置いておきましょう。

さてそうはいつでも、連日のようにマスコミでは韓国で行われている反日デモの様子や不買運動の様子が報じられており、無関心ではいられないのもまた事実です。私

も周囲の友人などから多少の心配があり、自分でも不安に思っていたところ、ある日、日韓経済協会から1通のメールが届きました。メールには韓国の子たちは日本の子たちの到着を待ち望んでいるので、安心して韓国に来てほしいというものでした。私はそのメールを信じることにしました。

韓国の学生と会ってみると、日本人と全く変わらない普通の高校生で、特に日本に対する偏見などとは無縁でした。やはり、私の思っていた国は国、人は人という考え方は間違っていなかったということが証明されました。

韓国の学生は日本語を話すことができ、全く日常会話などで困ることはありませんでした。むしろ、自分は日本語とせいぜい稚拙な英語しか話すことができないので、本当に外国語を話すことができることには素直に脱帽しました。

事業計画の際にも、専門的な話題になると、メンターさんを介してコミュニケーションをとることももちろんあったのですが、

たいていは韓国人の子たちが日本語で話してくれたので、本当に議論がスムーズに進みました。事業計画以外でも、私たちは日を追うごとに仲が良くなっていき、最終日には別れるのが悲しくて泣いてしまいそうになりました。初日には永専務に言われた、「君たち最終日には絶対泣くよ」という言葉は現実のものとなりました。

別れる日の前日、私たちは前日、発表のためほぼ徹夜で作業していて疲れていたにもかかわらず、夜中の3時まで一つの部屋に集まって、グループ全員で後悔を残すまいと半ば意地になって遊んでいました。まだその時には東京に帰るという実感がなく、ただ純粹にその時を楽しんでいましたが、自室に戻ってベッドに入るなり、翌日の別れのことが頭に浮かび、ブルーな気持ちになってしまいました。そして、翌日泣いてしまいそうだったのです。

人と人との出会いというのは本当に偶然に支えられていると思います。思えば、親、学校の友達、様々な活動で知り合った人たち。そのような人たちはこの地球に70億人もいる中でのほんの0.0001パーセントにも満たない人数です。つまり、何が言いたいのかというと、出会いというものは大切にしたいということです。地球上にはこんなにも人がいるのに、あの韓国の地で出会い、親睦を深めたということは本当に天文学的な数字でとても神秘的なことなのではないかと思って少し愕然としています。

もしかしたら韓国で会うことは必然で偶

然ではないと思う人もいるでしょうが、私はそうは思いません。人と人との出会いは偶然なのです。もし、あの時、このキャンプに申し込んでいなかったとしたらおそらく人生のベクトルが少しくずれていたかもしれません。ベクトルが少しくずれているだけで、今後の人生40、50年先の未来は全く変わっていたかもしれません。何を大げさなと思うかもしれませんが、私は本心でそう思っています。

実をいうと、私はあまり、韓国という国にはあまり良い印象を抱いていませんでした。でも、実際に行ってみると、本当に価値観が変わりました。キャンプに参加していた子たちは日本語が上手で日本が大好き。空港で出会った人たちも親切に日本語で話してくれて非常に助かりました。また韓国に旅行に行きたいと本当に思えるようなそんなキャンプでした。韓国に行く際はグループの子とみんなで集合してまた、遊びたいと思います。幸い、現代ではLINEやInstagramなどのSNSが発達しており、いくら物理的に距離があろうが、つながっていることはできます。今でも韓国の子とは連絡を取り続けており、近い将来必ず再会できると確信しています。韓国は沖縄に行くよりも近く、LCCなどを駆使すれば往復14000円程度で行けるので、そこまでハードルは高くないと思います。

韓国は地理的にも文化的にも永遠の隣人であることには変わりありません。今の日韓関係はお世辞にも良いとは言えませんが、これからの日韓関係の未来を創っていく私

たち若者が韓国の地で交流したということは決して無駄なことではないと思います。この交流で得た友達、経験が無駄にしないよう、そしてこれからの人生の糧となるようにしていきたいと思います。ありがとうございました。감사합니다.

チームのみんなへ

まずはみんなありがとう。本当に 5 日間

楽しい思い出ができました。メンターのスギョンさんも私たちが議論で迷走し始めるとすぐに軌道修正をしてくれたりして、私たちチームを支えてくれて本当にありがとうございます。もし韓国に行くことがあったら必ず連絡するからその時は一緒に観光しよう。日本に来ることがあったら必ず連絡してね。東京で遊ぼう。

## 「おいしい出会い」

韓 東燁 (ハン・ドンヨップ)  
鳳鳴高等学校 1年



初めてキャンプ会場の「ハイソウルユースホステル」に着いた時は、期待に胸が膨らむと同時に緊張感が押し寄せてきた。外国の友達に会うのはこれが初めてだったからだ。「言葉が通じなかったらどうしよう」、「文化の違いで喧嘩でもしたらどうしよう」などなどあれこれ心配が尽きなかったけれど、いざ日本の学生たちが到着し、何回か言葉を交わしてみるうちに、全て余計な心配だったように思えた。それでなくても日韓関係が良くないいま、それほど仲良くなれるわけないだろうと思っていたが、いくら外国人とはいえ、高校生は高校生な

んだなと感じた。僕たちはそれほど長い時間をかけず、すぐに打ち解けていった。

日本の学生の中にお母さんが韓国人でお父さんが日本人ということで韓国語が理解できるというメンバーがいた。そのメンバーは韓国語の聞き取りはできるが、喋ることはできなかったのも日本語で話をして、一方僕は日本語の聞き取りはできるが、喋ることができず韓国語で話をして、お互いにコミュニケーションをとっていた。それぞれ日本語と韓国語で話しているのに意思疎通ができているという面白い状況が作られた。

初日は、チーム名の決定と自己紹介の時間があった、この日のうちに、参加者全員と打ち解けることができた。また、チーム名は「ハナ」に決まった。「ハナ」は韓国語では「1」という意味で、日本語では「花」という意味を持っていることからチーム名に決まった。

2日目は、「三養 F&B」に行き、社内を見学したり、企業についての説明を聞いたり、アイスベーキングというものを使ってパンを作ったりした。三養 F&B での体験を基に事業アイテムを企画したが、その作業は3日目までも続いた。この過程を通じて日本人とたくさん会話をする中で日本の学生たちの考え方が分かるようになったし、たくさんコミュニケーションがとれたことがとても嬉しかった。

3日目も事業のアイテムについて話し合いを続け、僕たちのチームは最終的に日本と韓国の屋台を交換するというアイデアを事業アイテムとして決めた。

4日目は、事業アイデアを発表したが、他のチームもみんな素晴らしい発表だったので、最優秀賞は無理かなと思っていたのに、なんと最優秀賞に選ばれてしまった。本当に予想外の結果で、審査員の方々や一生懸命に発表を頑張ってくれたチームメンバーたちに心から感謝している。発表会の後は特技披露の時間だった。日本の浴衣を

韓国の学生が着て、韓国の韓服を日本の学生が着るイベントがあったが、みんな本当によく似合っていた。特技披露の時は「いくら国が違っても楽しく遊ぶ時は国境線なんかなくなるんだね!」と思った。その日の夜はみんなで一つの部屋に集まって楽しく話し合ってから各自の部屋に戻って寝た。

最終日はキムチづくりの体験の後、みんなと別れることになった。バスに乗り込む時までは泣きそうもなかったのに、いざ空港で別れる時は涙が溢れ出た。寂しい気持ちで日本の友達を見送った。

このキャンプを通じて掛け替えのない外国人の友達ができる。今も連絡をとっているし、これからもずっと連絡を取り合いたいと思っている。誰かには短く、誰かには長く感じられたかもしれない1週間の間、僕は本当にたくさんを感じて、たくさんの思い出を作って、掛け替えのない友達ができる。

今回は韓国で集まったが、次回は日本でみんなと会いたい。今回のキャンプは本当に一生に二度とない機会だったと思うし、このキャンプに参加するチャンスをくれた主催者に感謝している。人生という旅は「一人で歩いていくものではなく、周りの仲間や友達と一緒に歩いていくもの」だということに最近気づいた。掛け替えのない旅の仲間に出会えたようでとても嬉しい。

このキャンプにまた参加できるとしたら、必ずまた参加する。

## 「キャンプで手に入れたもの」



萩野 百音

早稲田大学本庄高等学院 3年

5日間のキャンプは本当にあつという間で、もっと時間の大切さを噛みしめて過ごせば良かったなと思うほどです。しかし、それ以外には全く後悔もなく、ありのままに心から楽しむことができました。

キャンプに参加して一週間が経ちましたが、毎日のようにキャンプで出会った友達たちと電話しているため、私はまだまだキャンプ気分です。そしてこのように、今だけでなくこれからもずっと、今回出会った素敵な人たちと繋がっていけるのだと考え、自分の世界が広がったようで本当に本当に嬉しいです。

私は昨年、学校のプログラムで韓国に行き、高校生と交流したため、今回は2回目の日韓交流の経験になりましたが、韓国に行くたびに韓国人を好きになります。優しく、ユーモアがあって、自分の意見をしっかり持っているところが本当に大好きで、尊敬できて、いつも多くの刺激をもらいます。

私のグループ1には、日韓関係なく個性的なメンバーが多く、初日は驚きの連続でとても不安だったことを覚えています。し

かし、事業発表会が近づくにつれてみんな真剣な眼差しになり、逆に、何もできない自分に対して焦る瞬間も出てきました。チームでは私が最年長だったのですが、とてもそうは思えないほど、周りのメンバーに助けられました。次に会ったときは年上らしく、みんなの面倒を見てあげるくらいに成長したいと思っています。

事業発表会の前日には深夜までお菓子を食べながら作業をして、結果的に1番を取ることができ、信じられない気持ちでいっぱいになりました。私たちのチーム名は“ハナ（ひとつ）になろう”だったので、それを現実に達成することができてとても幸せです。偶然にも1チームに入って、このメンバーに出会えたことに心から感謝しています。

このキャンプを終えて、私にはいくつかの目標ができました。一つ目は、韓国語を話せるようになることです。今までも多少は韓国語に興味がありましたが、実際に韓国人の友達同士が韓国語で流暢に話しているのを見ると、何を話しているかすごく興味があるし、一緒に話したいと本当に強く

思って、今までに感じたことがないような歯がゆさを覚えました。発音がとても難しいし、まだまだ聞き取れないことが多く、悔しく感じることも多いですが、毎日熱心に韓国語を教えてくれる友達もできたので、私のできる限り、必死に勉強したいと思っています。次にその友達に会うまでに、韓国語で話せるようになることが目標です。

二つ目は、韓国の歴史について詳しく学ぶことです。日本では、テレビをつけるたびに日韓関係に関するネガティブなニュースが流れています。実際に韓国に行ってみると、全員が悪い感情を持っているわけではもちろんないことがわかるし、ニュース

がすべて正しいわけではないのだと、すぐに理解することができます。良好な日韓関係を作っていくためには、これからの未来を作る、私たちの世代がたくさん交流を重ねて、人と人との信頼関係を築くことが必要不可欠だと、今回のキャンプで改めて感じたので、私も正しい認識を持った上で多くの韓国人と関わっていきたいと思っています。

こんなにも、私の気持ちに大きな変化を与えてくださったこのキャンプに、本当に感謝しています。五日間ありがとうございました。

